



豊田市 施策ガイド
 Toyota City



豊田市は、ミライに向けた先進的な取組にチャレンジしています。

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、愛知県全体の17.8%を占める広大な面積を持つまちです。

全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ、世界をリードするものづくり中枢都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を占める豊かな森林、市域を貫く矢作川、季節の野菜や果物を実らせる田園が広がる、恵み多き緑のまちとしての顔を併せ持っています。

それぞれの地域の持つ特性を生かし、多様なライフスタイルを選択できる満足度の高い都市として更なる成長を目指しています。



< 豊田市の概要 >

人口 41万5,286人 (2024年10月1日時点)

面積 918.32km²

- SDGs未来都市 (2018年選定)
- 全国市区SDGs先進度調査 全国1位
※日経グローバル 発表(2024)
- 中核市幸福度 総合1位(5回連続)
※(一財)日本総合研究所 発表(2024)
- 共働き子育てしやすい街 東海1位(全国8位)
※日経クロスウーマン・日本経済新聞社 発表(2024)

目次

豊田市 特徴的な施策

◆ SDGs認証制度	1	◆ 緑のリサイクルセンター	23
◆ ずっと元気！プロジェクト	2	◆ 地域リハ イノベーションセンター	24
◆ 仮想空間「メタバースとよた」	3	◆ 重層的支援体制	25
◆ 豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例	4	◆ 高齢者総合相談・認知症支援	26
◆ チャレンジを生み出す組織づくり	5	◆ 地域・学校・企業等を巻き込んだまちぐるみの健康づくり	27
◆ LINE行政サービス	6	◆ 100年の森づくり	28
◆ ノーコード・ローコードツール活用による業務効率化	7	◆ 地域産業発展を支える企業支援	29
◆ とよたデータボード(BIツール)	8	◆ 多様な人材の活躍支援	30
◆ スマート窓口支援システム構築	9	◆ ものづくり創造拠点 SENTAN	31
◆ 未収債権の一元化と弁護士及び福祉との連携	10	◆ あそべるとよたプロジェクト	32
◆ 地域自治システム	11	◆ 豊田市農ライフ創生センター	33
◆ 交通安全学習センター	12	◆ 都心環境計画	34
◆ ジコゼロ大作戦	13	◆ 名鉄三河線若林駅付近 連続立体交差事業	35
◆ ものづくり教育プログラム・藤嶋塾	14	◆ 矢作川かわまちづくり	36
◆ 若者によるまちづくり提案事業WAKATTE	15	◆ 豊田市矢作川研究所	37
◆ 充実した保育環境	16	◆ 道路・河川DX	38
◆ とよた・ゼロカーボンアクション	17	◆ 水道DX	39
◆ 脱炭素まちづくりの推進	18	◆ 給排水工事オンライン申請システムの共同導入	40
◆ ラムサール条約湿地の保全	19	◆ 耐震性貯水槽の設置	41
◆ 自然環境学習の推進	20	◆ カーボンニュートラルに対応した学校の暑さ対策	42
◆ 環境の保全を推進する協定協議会	21	◆ 「WE LOVE とよた」	43
◆ リユース工房・リユーススポット	22		

豊田市 特選イベント＆スポット

◆ 世界ラリー選手権ラリージャパン	44	◆ 足助重要伝統的建造物群保存地区	49
◆ 豊田スタジアム	46	◆ 鞍ヶ池公園	50
◆ 豊田市博物館・美術館	47		

「持続可能なまちづくり」を企業とともに

SDGs認証制度

本制度では、現在企業等に求められている「SDGsに関する取組」を豊田市が指標としてまとめ、これに基づいて企業の実績を点数化し、認証を与えます。

事業者にとって、自らがどの程度SDGsの達成に資する取組を実施できているのかを把握し、更なる取組を検討する契機にすることができます。認証取得者に対しては、SDGsの推進に役立てていただくため、補助金や人材獲得に向けたPRなど、多くの支援メニューを用意しています。

また、認証に至らなくとも認証取得を目指して取組を進める意欲のある事業者に対しては、市・豊田商工会議所・豊田信用金庫の3者が中心となって取組をサポートします。

この制度により、市内産業においてSDGs達成に向けた取組が拡充・深化され、持続可能な産業社会の構築につながることを期待しています。



SDGs

未来都市
とよた

内閣府 第3回地方創生SDGs金融表彰受賞



SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)による介護予防事業

ずっと元気！プロジェクト

ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)と呼ばれる委託契約手法により、民間資金を活用して、高齢者に対して介護予防につながる様々なプログラムを提供します。

スポーツ・健康、趣味・エンタメ、コミュニケーション・就労支援などに関わる幅広い民間事業者がサービス提供者となります。市が設定した介護予防に関する成果が報告されれば、その成果に応じて報酬を支払う仕組み。各事業者は自社のノウハウやアイデアを積極的に活用し、高齢者にプログラムを提供します。

超高齢社会が進展する中、官民が一体となって介護予防に取り組み、シニア世代の明るい生活を応援します。



市民・企業・行政などあらゆる主体が利用できる

仮想空間「メタバースとよた」

豊田市は、メタバースを地域課題解決に資する社会インフラとして捉えるとともに、その将来的な普及を見据え、市民、企業、行政が一体となってメタバースを活用しやすい環境を整備するための取組方針等を示す「豊田市メタバース将来ビジョン」を令和6年5月に策定しました。

同ビジョンに基づき、市民や企業、行政、団体が、コミュニティ形成や情報交換、実証実験を目的としたイベント等を主体的に行える仮想空間「メタバースとよた」を構築しました。

行政が構築したメタバース空間で市民や企業が多様な活動を展開できる点は、全国的にも先駆けた事例であり、地域全体でメタバースの取組を推進します。

メタバースとよたの玄関口



アバターを介した悩み相談の場



課外活動や不登校児童生徒の居場所



セミナーなど大人数を集めるイベント



とよたの山村を次の世代に

豊田市山村地域の持続的発展 及び都市と山村の共生に関する条例

豊田市は、矢作川流域でつながる都市と山村が共存する多様な魅力にあふれるまちです。

山村の価値を次の世代につなぐため、都市と山村がつながり支え合うことにより、持続的なまちづくりを推進することを決意し、条例を制定しました。

【条例が目指すもの】

- ①共働による住み続けられる山村地域づくり
- ②地域資源等を生かした山村の活力・魅力の向上
- ③都市と山村の共生による豊かなまちの実現

【ポイント】

- ①「山村の価値」を定義しました。
- ②市の責務、市民、山村住民、事業者等の役割を定めました。
- ③施策の総合的な推進体制を構築しました。



山村の価値 (山村の豊かさ)

- 山林、田畑、川、空気、水、生き物などからなる豊かな自然環境
- 自然と共生する暮らしの中から生まれた景観や歴史・文化
- 住民が支え合う風土、暮らしの知恵・手技などの営み
- こうしたものから感じられる心の充足感や安心感、幸せなど

豊田市 特徴的な施策

行政経営を支える「職員力・組織力」を好循環で高める

チャレンジを生み出す組織づくり

行政が持つ経営資源を最大限に生かし、市民の期待に応える行政サービスを展開するため、「褒める」「改善」をキーワードとした組織づくりを行っています。令和5年度には、本市発案案件が内閣府「地方分権改革推進アワード」を受賞しました。

○褒め合う職場環境づくり

➤ グッジョブカード

職員同士のコミュニケーションや褒めたたえ合う手段の一つとして「good! job!」な行動をした職員に対して、カードにメッセージを書き、渡し合う制度です。10枚、50枚達成時には、地元特産品にちなんだ景品を贈呈しています。

➤ グッジョブ☆キラリ賞

業務の枠を超えて、公務員として模範的な行動や活動を行った職員を市長が直接表彰する制度です。組織全体のチームワーク強化や職員相互に賞賛する風土醸成を目的としています。

○職員提案制度

➤ 改善提案制度

実施済みの改善を報告し、評価する制度です。職員の自発的な業務改善を促進し、令和5年度は8,000件を超える提案が提出されました。

➤ 課題提案制度

特定のテーマについて、全庁からアイデアを募集する制度です。多様なアイデア・知見の活用とともに、職員の発想力・創造力の向上につなげています。



チャレンジを生み出す
元気な組織

褒め合う職場環境
グッジョブカード・グッジョブ☆キラリ賞

職員提案制度
改善提案制度・課題提案制度

令和5年度地方分権改革推進アワード受賞!
～歳入のコンビニ収納を可能に～



- 1 褒め合う職場環境づくりについて 総務部 人事課 電話 0565-34-6609
- 2 職員提案制度について 総務部 行政改革推進課 電話 0565-34-6652

豊田市 特徴的な施策

いつでも・どこでも手続きできる窓口

LINE行政サービス

本市では、市公式LINE上で、自宅から24時間365日、申請や行政手続きが可能な「スマホ市役所」を実現しています。

これまで電話や紙で行っていた手続きがLINEでできるようになり、住民は、自身の生活スタイルに合わせて行政サービスを受けられるようになりました。子育て支援センターのイベント予約では、年間1万件あった電話対応が0件になるなど、職員の負担軽減にも寄与しています。

その他、スマートフォンで参加できるデジタルスタンプラリー、粗大ごみのLINE申込みシステムなど、簡単・便利なサービスの提供を広げています。

今後も利用できる手続きを増やして、いつでも・どこでも行政サービスを受けることができる窓口の実現に向けて取り組んでいきます。

デジタルスタンプラリー



粗大ごみの申込



その他運用している主な手続き

- ・一時保育プラスの申込
- ・無料法律相談、税務相談の予約
- ・子育て支援センターのイベント予約
- ・家屋調査の日程変更
- ・道路損傷、漏水、下水道マンホールの通報
- 等

豊田市 特徴的な施策

BPRの視点で職員の業務負担を削減

ノーコード・ローコードツール 活用による業務効率化

自治体システム標準化に伴い、ノーコード・ローコードツールによるシステム内製化の需要はより一層高まっています。

本市では、職員の業務効率化や自治体システム標準化に伴うパッケージシステム移行への対応という目的のため、市役所内におけるkintoneの利活用を推進しています。

自治区における工事申請受付業務や、パッケージシステムを従来利用していた業務をkintoneアプリ化した事例など、少しずつ取り組み事例を増やしており、業務効率化だけでなく、金銭的なコストの削減にも寄与しています。

○これまでの主な活用事例

- ・工事申請※書のオンライン化(建設部)
- ・応急手当講習における内部事務の簡素化(消防本部)
- ・コロナ感染者の疫学調査事務(保健部)

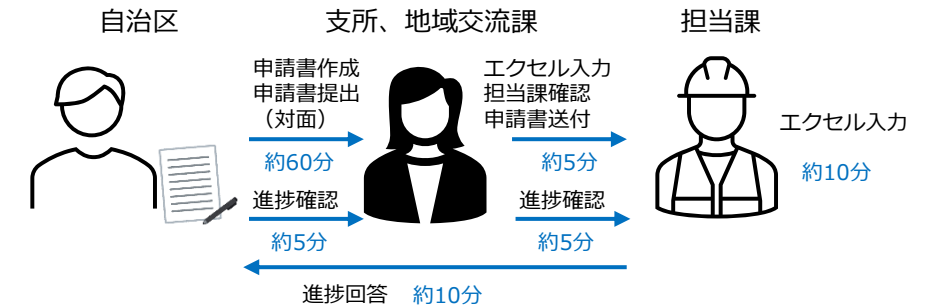
など

※各自治区長が地域の困りごと(道路や河川・排水路関係等)の解消を市に要望申請すること

例:自治区における工事申請受付の業務フロー

Before

- ・工事申請書の事務は紙で行われ、案件管理は共有エクセルで行われている
- ・電話で進捗確認の問合せを受けることが多い
[工事申請書件数]: 年間約2,000件



After



総務部 情報戦略課 電話 0565-34-6946

データに基づいた施策立案を推進

とよたデータボード(BIツール)

職員の勘や経験を基にした判断から脱却して、データに基づき政策立案(EBPM: Evidence Based Policy Making)することの重要性が増しています。

本市でも市役所内外でのEBPMを推進するため、市が保有するデータをオープンデータとして一般公開し、様々な政策の検討や地域活動にデータを活用できる環境を整備しています。

とよたデータボード(BIツール: Business Intelligence ツール)はこの取組をさらに活発化するものです。オープンデータをグラフ・地図等で視覚的に分かりやすい形にまとめたダッシュボードを作成・公開することで、誰でも簡単にデータを活用できる環境を提供しています。

豊田市における1995年-2040年の人口推移(推計)

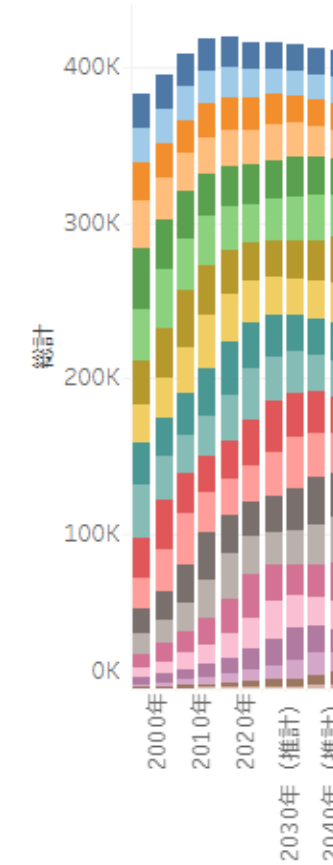
地図



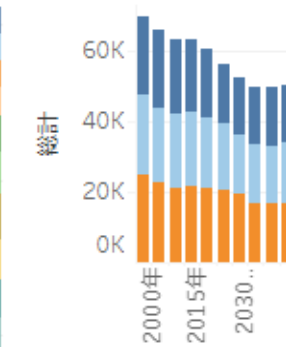
中学校区選択

- ◎ (すべて)
- 逢妻中学校
- 朝日丘中学校
- 旭中学校
- 足助中学校
- 井郷中学校
- 石野中学校
- 稲武中学校
- 梅坪台中学校
- 小原中学校
- 上郷中学校

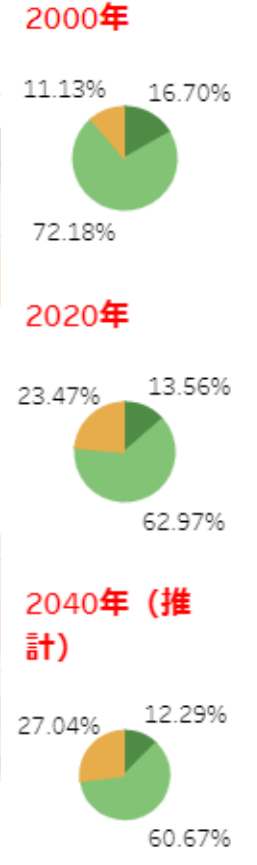
全世代の人口推移



15歳未満の人口推移



世代割合の推移



豊田市 特徴的な施策

書かない窓口を実現する仕組み

スマート窓口支援システム構築

豊田市では、窓口の混雑解消と市民の利便性向上を目的に、令和5年6月19日から住民異動届(転入・転出・転居等)に係る窓口事務について「スマート窓口支援システム」を導入し、来庁者が申請書類の記載を不要とする「書かない窓口」を実現しています。

○導入した窓口

市民課、13支所・出張所

○システムの特徴

➤住民異動に伴う必要な手続をワンストップで実施しています。

(例:国民健康保険、児童手当、就学通知、各種証明申請等)

➤システムに対応する言語は7か国語です。

○対象となる申請書等

23種類(5所属)

○スマート窓口支援システムの概要①

受付窓口で既存の住民情報や転出証明書情報を活用しながら、システムに異動者情報を入力します。



○スマート窓口支援システムの概要②

必要な手続を窓口で質問し、住民異動届など必要な申請書等を作成します。



○異動情報の事前申請

スマートフォン等を使用して申請情報を入力し、QRコードを作成していただきます。作成されたQRコードを受付窓口で提示することで、受付時間の短縮を図ることができます。



豊田市 特徴的な施策

「誰一人取り残さない社会」を実現する

未収債権の一元化と 弁護士及び福祉との連携

豊田市では、以下の3点を課題とし、平成28年度から段階的に市の未収債権の徴収一元化を進めています。

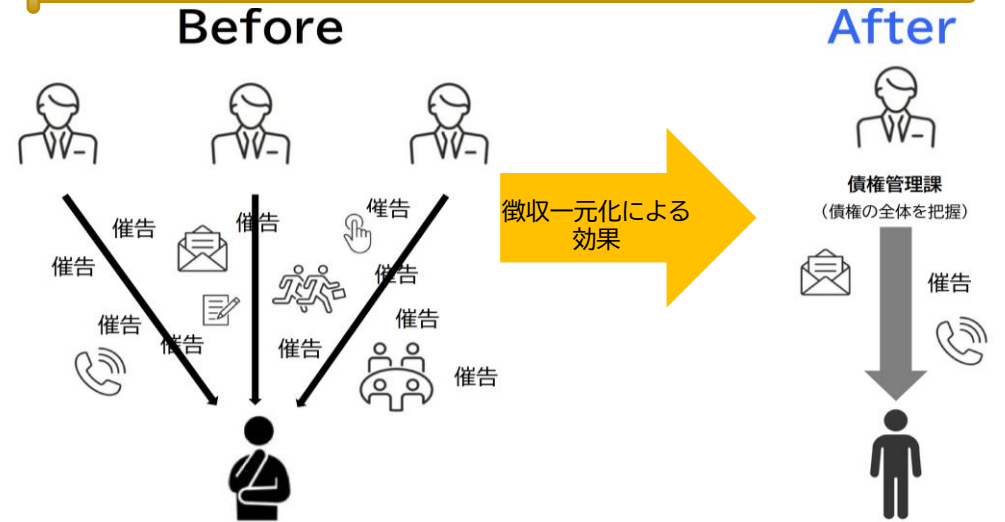
- ①市税以外の未収債権は増加しているが、債権を所管する各課が複雑な滞納整理事務を習得することは困難な状況であること
- ②市税以外の滞納者の6割近くが同時に市税も滞納していること
- ③債権を所管する各課が滞納者に対し個別に催告を行っており、債権の取り合いが発生していること

同時に、マンパワー不足等の課題を解消するため、市の債権回収に関連する業務を、「公務員が自ら実施すべきもの」と「民間委託すべきもの」に整理し、「民間委託すべきもの」については弁護士へ外部委任することとしました。

その他の債権の債権回収業務を弁護士へ委任することにより、接触機会が増加し、生活困窮者の早期発見が可能となりました。

また、発見した生活困窮者を早期に福祉部門につなぐため、福祉部門と連携した納付相談会を年に1回実施しています。

第10回プラチナ大賞「行政イノベーション賞」を受賞！



条例上の定義	債権の分類	発生	納入通知	督促	延滞金	催告	強制手続	消滅
税・公課	強制徴収公債権	・公法上の原因により発生	・調定・納入の通知	・不服申立可	可	・時効完成猶予有	公務員が自ら実施すべきもの ・財産調査権 有 ・自力執行権 有 ※職員が自ら預金等を差押え	・時効期間の満了により消滅
その他の債権	非強制徴収公債権	・私法上の原因により発生	・私法上の原因により発生	・時効消滅有	・延滞預告並徴収可	・時効完成猶予有	民間委託が可能なもの ・財産調査権 無 ・自力執行権 無 ※裁判所の手続が必要	・時効の援用必要

市民部 債権管理課 電話 0565-34-6619

地域のことは、地域で決める

地域自治システム

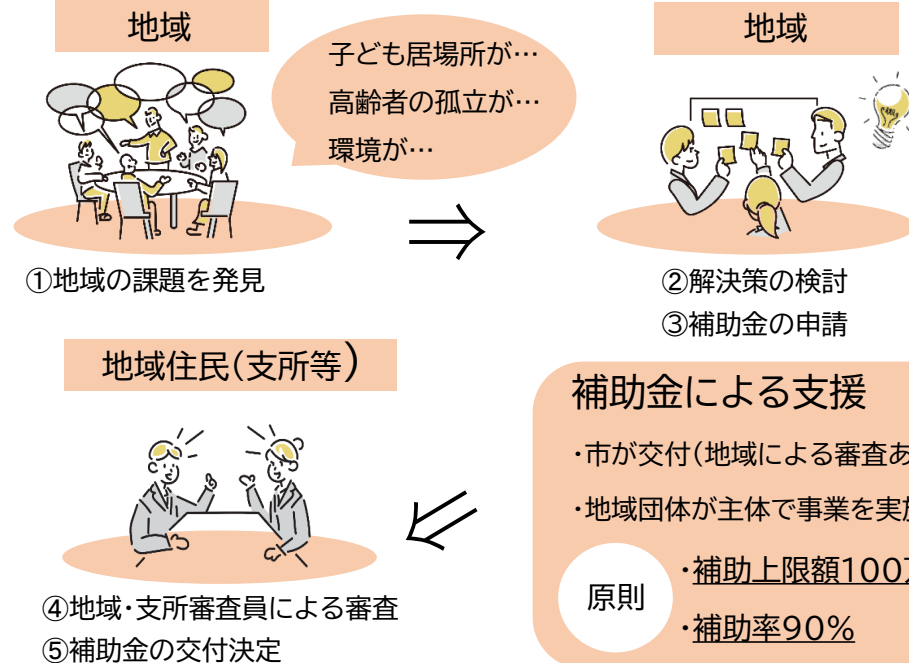
地域自治システムとは、都市内分権を推進し、地域住民の意見を市政に反映するとともに、地域の課題を地域住民自らが考え解決するための仕組みです。

地域自治システムを進めるための体制として、市内28の地域会議(地域協議会)と12の地域自治区事務所(地域交流課及び11支所)を設置しました。また事業として、「わくわく事業」と「地域課題解決事業」を実施しています。

わくわく事業は、住みよい地域づくりのため、地域資源(人材・文化・自然など)を活用して、「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の活動に対し補助金を交付する制度です。

地域課題解決事業は、住みやすい地域づくりのために、地域の声を的確に市の事業に反映させ、地域課題を解決するための仕組みです。課題を解決するために必要な事業費を市の予算案に反映し、市と地域が共働で課題解決のための事業を実施します。

わくわく事業



地域課題解決事業



楽しみながら体験的に学ぶ！交通安全学習の新しいカタチ！

交通安全学習センター

豊田市交通安全学習センターは、全国的にも類を見ない大規模な体験型の交通安全学習施設です。信号機や道路、住宅などの模擬市街地により、こどもたちは安全な環境で体験的に学習することができます。

日中の講習だけでなく、夜間の視認性や反射材の大切さを学ぶナイトスクール等も季節のイベントにあわせて実施しています。

年間を通じて市内の全てのこども園、小学校(1年生・4年生)がこの施設で学習し、中学校(1年生)、高校(1年生)には、出張講習を実施しています。その他、一般や高齢者向けの講習も行っており、豊田市ではこどもから大人になるまで段階的な交通安全学習に取り組んでいます。

この施設は豊田市初のPFI事業(※)として、2010年にリニューアルされ、民間企業により建設・整備された充実した施設や体験機器、また、開館後も定期的な展示物の入れ替えといった工夫により、年間来場者数が約3万人から約10万人に増加しました。

(※)PFI事業…公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法です。



詳細はこちら(施設HP)→



地域活躍部 交通安全防犯課 電話 0565-34-6633

豊田市 特徴的な施策

交通死亡事故ゼロの実現に向けた先進実証

ジコゼロ大作戦

豊田市は、交通死亡事故ゼロの実現に向けて、協力企業・団体とともに、様々な先進実証事業に取り組んでいます。

○スマートモビリティインフラ

カメラやセンサー、通信機器等を搭載したポールを設置し、自動車や自転車の運転者及び歩行者の意識や行動に与える影響を検証します。

○住民ヒヤリハットデータベース

身近な生活の中で危険を感じた体験や事故統計データから予測した死亡事故が起こる可能性が高い場所をWebマップ上に公開し、交通安全啓発や交通安全対策の選定に活用しています。

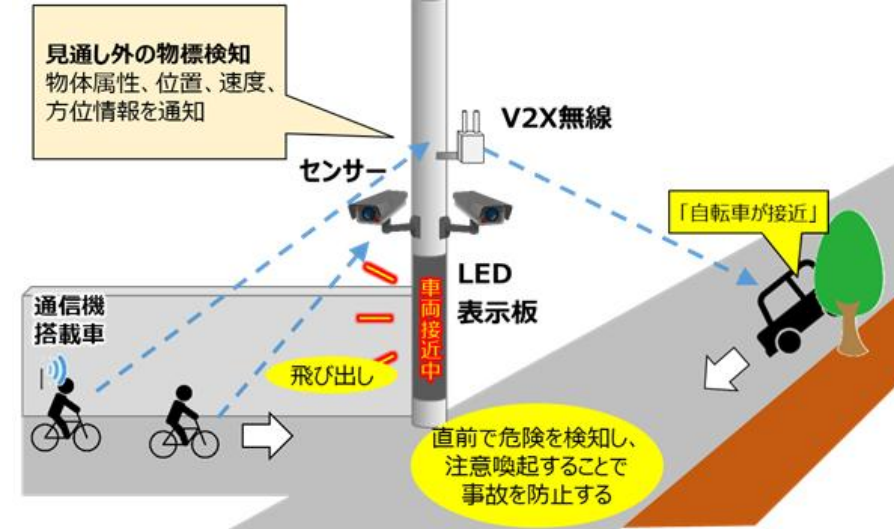
○高齢者安全運転診断サービス（ドラみる）

ドライブレコーダーの映像をAIで解析し、運転評価をします。長く安全に運転を楽しんでもらうため、自分が持つ運転特性やくせに気づき、運転改善に結びつけていただく取組です。

○プローブデータの活用

急ブレーキや最高速度などの車から得られるデータ（プローブデータ）や車の走行履歴を分析し、交通危険箇所見える化及び交通事故防止に向けた活用を検討しています。

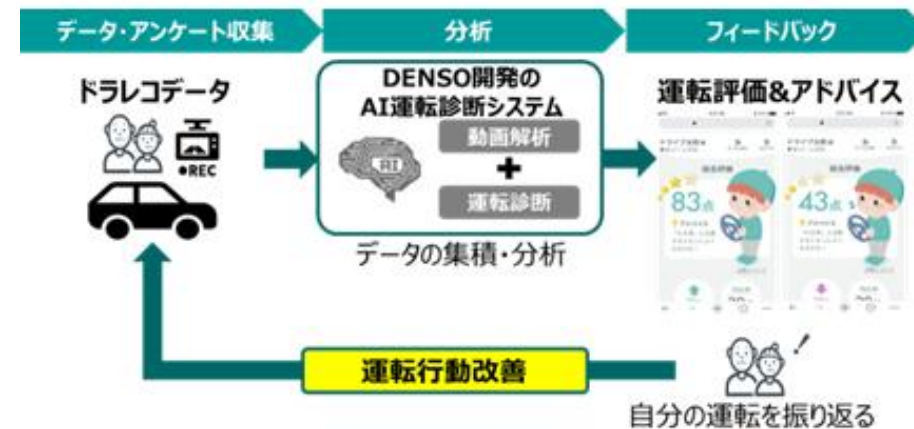
スマートモビリティインフラ



設置例



高齢者安全運転診断サービス（ドラみる）



ヒヤリハット
体験マップ



豊田市 特徴的な施策

ものをつくることの楽しさや大切さを学ぶ場を創出

ものづくり教育プログラム・藤嶋塾

豊田市では、市民公募したものづくりサポーターによる支援体制を確立し、小学校のカリキュラムの中に自然・科学・技(匠)を学習・体感できる10種の「豊田市ものづくり教育プログラム」を提供しています。

子どもたちのものづくりに対する興味・関心を高め、創造性・感受性を育てるとともに、ものづくりサポーターには生きがいの場・生涯学習の場として活用してもらうことで、大人と子どもがものづくり活動を通して教え学び合う関係を築く機会としています。

○プログラム実施校 令和4年度56校 令和5年度70校
(全76校中) 令和6年度73校

また、抗菌・抗ウイルス・脱臭などの様々な効果を生み出す光触媒反応を発見した東京理科大学の栄誉教授で、豊田市名誉市民でもある藤嶋昭(ふじしまあきら/豊田市立佐切小学校出身)氏を講師に迎えて、同氏の経験や発想を学ぶことで、ものづくり等の人材育成を目指す「藤嶋塾」を平成30年から開催しています。



教育プログラムの授業風景



藤嶋昭氏による「藤嶋塾」



魅力創造部 学び体験推進課 電話 0565-34-6660

豊田市 特徴的な施策

青少年センターによる若者の社会参加支援

若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE

青少年センターは、青少年の健全育成を目的とし、若者の社会参画、若者の自立支援、居場所づくり、情報発信を行う機関です。

若者の団体によるまちづくり企画を募集し、採択された団体には委託費を支給するとともに、若者たちが企画を実現するまでの支援を行う事業として、若者によるまちづくり提案事業「WAKATTE」を行っています。

○採択企画の一例

「豊田市とジビエの魅力発信事業」

「アウトドアで就活！？～豊田で選ぶみらいのかたち～」

その他にも、企画の立案から実現までを伴走支援する学生向けの事業等も行っています。

豊田市を盛り上げる若いチカラの担い手を育成し、若者目線のまちづくりや魅力発信等を応援しています。

The poster for WAKATTE features a yellow background with four cartoon characters at the top. Text on the poster includes: '採択は原則1団体 委託料上限 50万円' (Selection is原则上 1 group, maximum grant 500,000 yen), '若者が「叶えたい」「やってみたい」まちづくり企画を募集します!!' (We are recruiting ideas from young people that they 'want to achieve' or 'want to try'!), and 'WAKATTE'. Below the title, it says '「WAKATTE」とは?' (What is WAKATTE?). The definition is: '若者が「叶えたい」「やってみたい」まちづくり企画を応援する事業です。' (It is a project to support ideas from young people that they 'want to achieve' or 'want to try'). The poster lists six points: POINT 1 若手 (Young people), POINT 2 若者が提案 (Proposed by young people), POINT 3 分かって (Understood), POINT 4 わくわくあって (Excitement), POINT 5 若者の勝手 (Young people's way), and POINT 6 若者をもって (With young people). At the bottom, there are two photos of young people at outdoor events, one with a sign for 'TALLY JAPAN 2023'.

こども・若者部 こども・若者政策課 電話 0565-34-6630

こどもたちの「にこにこ わくわく」があふれるまち

充実した保育環境

安心して子育てできるまちづくりに向けて、保育環境の充実を図る取組を実施しています。

○市独自の幼保一体化施策推進により、公立幼稚園及び公私立保育所の名称を「こども園」に統一し、児童に均一な保育を提供

○保育の質向上と、保育士の負担軽減を図り、市独自の保育士配置基準を設定(1・2歳児1:5、3歳児1:12)

○子育て世帯の経済的負担軽減を図り、幼児給食費を無償化さらに、市独自の安い保育料設定

○保護者、保育士の負担軽減と、保育の質向上を図り、保育業務支援システム及びキャッシュレス支払システム導入

○市内16か所に子育て支援センター設置。こどもがのびのびと遊べるスペースに加え、親同士の情報交換や子育ての悩み相談を実施



豊田市子ども条例
マスコットキャラクター
「チルコ」



豊田市 特徴的な施策

市民の行動変容を促す市民運動・プロモーション

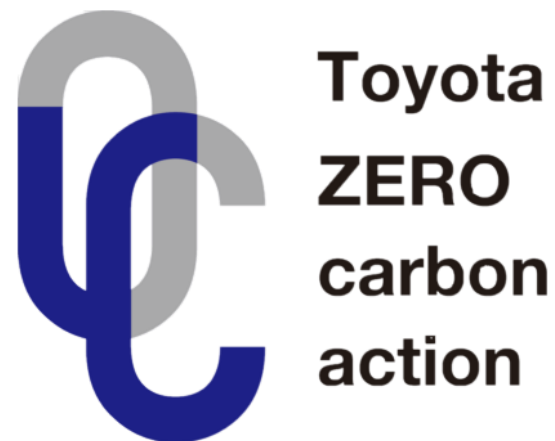
とよた・ゼロカーボンアクション

豊田市、豊田市区長会、豊田商工会議所、あいち豊田農業協同組合、連合愛知豊田地域協議会などで構成するゼロカーボンシティの実現を目指す協議会を新たに発足し、市民や事業者が一体となって「節電」「3R」「食品ロス削減」といった身近な環境配慮行動を実践する市民運動「とよた・ゼロカーボンアクション」を展開しています。

とよた・ゼロカーボンアクションでは、
「カーボンニュートラルを楽しもう」
を掲げた取組をしています。

- 夏の節電や秋のエコドライブなど、時節に合った行動実践型のキャンペーンの実施
- アップサイクルワークショップや地元スポーツチーム選手によるゼロカーボントークショー、食ロス削減実践ライブキッチンなど参加型イベントの開催

このような活動を拡げることで、市内でカーボンニュートラルの意識醸成が進み、市民の行動変容につながっています。



詳細はこちら(豊田市HP)→



2050年度CO₂排出実質ゼロを目指して

脱炭素まちづくりの推進

環境性能に優れたスマートハウスやZEH、次世代自動車の導入に対し、「豊田市エコファミリー支援補助金」を実施しています。令和6年度からは、住宅の改修に対して補助をする「豊田市住宅省エネ改修補助金」を新設し、市内住宅の脱炭素化を進めています。

また、事業者の脱炭素化を支援する通年セミナー「豊田市脱炭素スクール」を実施しています。「脱炭素経営のポイント」、「省エネ推進」、「再エネ導入の実践手法」などを学びあう場で、「講義」、「グループワーク」をとおして、参加事業者の脱炭素経営を強力に推進しています。

その他、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金も活用し、2030年度までに、設置可能な市有建築物等(約150施設)に太陽光発電設備を導入する予定です。

並行して実施している、照明のLED化や空調等の省エネ改修などを合わせ、2030年度にCO₂排出量を50%削減(2013年度比)を目指します。



詳細はこちら(豊田市HP)→



市民との共働による生物多様性保全

ラムサール条約湿地の保全

豊田市は、ラムサール条約登録湿地である「東海丘陵湧水湿地群(矢並湿地・上高湿地・恩真寺湿地)」の保全に取り組んでいます。

各湿地では、希少な動植物を保全するため、集水域の森林整備に加え、地元住民を中心とした保全団体や地元企業により、草刈りや外来植物の駆除などの活動が行われています。

また、地域の自然への関心や愛着を育み、貴重な自然環境を次世代へ繋いでいくため、近隣の小学校を「湿地保全学習モデル校」に選定し、湿地を活用した環境学習を支援しています。

詳細はこちら(豊田市HP)→



身近な自然との触れ合いから生物多様性を学ぶ

自然環境学習の推進

豊田市は、約150ヘクタールの広大な敷地を有する「豊田市自然観察の森」を設置し、都市近郊の里山環境を保全することで、自然環境学習を推進しています。

豊田市自然観察の森は、全国10か所に整備された自然観察の森のひとつで、ネイチャーセンターを中心として、観察路や標本資料館などの施設が整備されています。

敷地内では四季折々の動植物を観察することができ、小学校の単元に合わせた環境学習プログラムを提供しているほか、一般向けの自然観察会やガイドウォーク等も実施しています。

詳細はこちら(豊田市HP)→



豊田市 特徴的な施策

企業や市民の環境配慮行動の推進

環境の保全を推進する協定協議会

持続可能な社会の実現に向け、豊田市とトヨタ自動車をはじめとする市内企業数十社が連携し、企業や市民の環境配慮行動を推進するための活動を行っています。

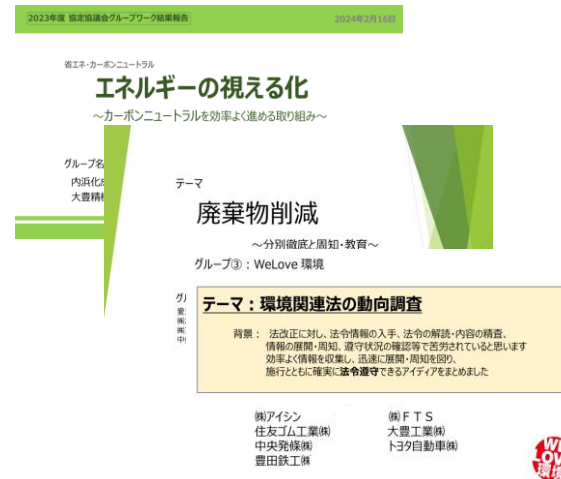
先進的なものづくり企業の「ヒト(環境部門実務者のノウハウ)・モノ(環境保全設備)・ネットワーク(関連企業とのつながり)」、行政の持つ「環境規制や環境情報・市民展開ツール」を活用した取組を展開しています(2010年1月設立)。

【事業者向け事業】

- カーボンニュートラルや廃棄物削減などの環境取組を深掘りするグループワーク活動とその成果の情報発信
- 法令順守や環境取組の底上げを図る、企業向け環境法令学習用教材(6分野)の作成(累計3万冊以上配布)
- 中小企業向け技術支援セミナーの開催 など

【市民向け事業】

- 学生目線で企業のエコな取組を取材・発信するエコ企業取材班 など



グループワーク発表資料



事業者向け技術支援セミナー



6分野の環境法令学習用教材



市民向けエコ企業見学・環境学習会

詳細はこちら(環境の保全を推進する協定協議会HP)→



環境部 環境保全課 電話 0565-34-6628

豊田市 特徴的な施策

ごみの減量やリユース(再使用)の啓発を目的とした施設

リユース工房・リユーススポット

物を大切に長く使う意識醸成やごみの減量・リユースへの理解を深めることを目的として、平成24年11月にリユース工房を開設しました。リユース工房では、家庭から粗大ごみとして排出された家具等を清掃・補修し、入札方式で展示販売しています。

粗大ごみ以外でも豊田市の清掃施設へ搬入されたごみの中に、まだまだ使える物が多くあることから、令和5年11月にリユーススポットを開設しました。排出された家庭ごみを簡易清掃し、展示、譲渡しています。

【展示品例】

リユース工房 : チェスト、テーブル、椅子、棚、テレビ台など

リユーススポット: スチールラック、ゴルフクラブ、衣類など

●リユース工房



詳細はこちら
(豊田市HP)→



●リユーススポット



詳細はこちら
(豊田市HP)→



豊田市 特徴的な施策

食品残さ、刈草、せん定枝を堆肥化する全国有数の施設

緑のリサイクルセンター

一般廃棄物処理基本計画の基本方針の一つに掲げている「資源循環の促進」を図る施設として、リサイクルとごみの減量の促進を図ることを目的として整備しました。

豊田市内で発生した刈草、せん定枝及び食品残さを堆肥化し、化学肥料削減等の環境保全型及び循環型農業の推進を目指しています。

施設に搬入された刈草等は、破碎・膨潤・攪拌・発酵等の処理工程を経て約45日で堆肥化します。水分・空気・温度の適切な管理を行うとともに発酵時等の臭気について充分な脱臭対策を講じて、衛生的な施設運営をしています。



袋堆肥



ばら堆肥



チップ

● 緑のリサイクルセンター

(住所) 豊田市枝下町下笹沢197
(電話) 0565-43-2080
(利用時間)
・月曜日～金曜日 9:30～17:00
・土曜日 8:30～12:00

※祝日は月曜日から土曜日であれば利用可
※日曜日、年末年始は休み



<施設概要>

敷地面積	全体79,430㎡(施設約30,000㎡)
構造	鉄骨造平屋建
処理方法	破碎、膨潤、攪拌、発酵、袋詰め
処理能力	破碎 22.5t/日 発酵・熟成 27.0t/日
処理実績	2,902t/年(令和5年度実績)
竣工	平成22年6月30日



発酵している状況

詳細はこちら(豊田市HP)



(施設)



(堆肥)

環境部 清掃施設課 電話 0565-28-2000

先進的な地域リハビリテーションの実証と情報発信の拠点

地域リハ イノベーションセンター

在宅でのリハビリや介護を支援する先進機器の展示、健康寿命延伸に向けた健診活動などを通じて、高齢者や介護が必要となった人々が生き生きと生活できるように支援する体験型情報拠点として、令和3年11月に豊田地域医療センターに開設しました。

当施設は、生活機能の強化や介護量の軽減、移動を支援する先進機器を展示・体験できる「ロボティックススマートルーム」と「モビリティトライアルコーナー」、心身機能が低下した状態の早期発見、維持・改善につなげる「サフロ(※)健診コーナー」の3つの機能からなります。

(※)サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドローム

医療・介護・福祉機器の技術革新への貢献と情報発信を行いながら、地域リハビリテーションの更なる発展に向けて取り組んでいます。



多様化する福祉的な課題への支援・対応の仕組み

重層的支援体制

豊田市では、一人ひとりの「安心な暮らし」と「生きがい」、「つながり合える地域」を共に作り、幸せを感じられる地域共生社会を理念として掲げ、実現を目指しています。

一方で、高齢化の進展、孤独・孤立の増加、家族や地域といった支え合いの基盤の弱体化などを背景に、生活上に生じる福祉的な課題は多様化しています。そのため、単独の機関や支援者だけでは、対応することが難しくなっています。

そこで、本市では、

- ① 困り事を受け止め多機関が協働し支援する「包括的相談支援」
- ② 自分らしく社会に参加するための「参加支援」
- ③ つながり合い、支え合う「地域づくり」

の取組を重ね合わせて実施する体制を整え、地域共生社会における市民生活を支えています。

詳細はこちら(豊田市HP)→



支え合いの中で、困り事に気づき、早期の相談に

包括的相談支援

様々な困り事を受け止め、社会参加を含めた支援を

重層的支援体制
(多機関協働による推進)

地域づくり

参加支援

多様な市民が社会に参加できる地域に

豊田市における体制の特徴

- ▽ 14の所属・機関が実施主体を担っていること
- ▽ 福祉のみならず、消防や医療、教育、精神保健等の多分野で連携して、困り事を抱える方々に対する支援に取り組んでいること
- ▽ 民間事業所等と連携した「とよた多世代参加支援プロジェクト」を実施し、新たな社会参加支援メニューを創出していること
- ▽ 地域振興、市民活動支援、芸術など複数の施策を組み合わせ、興味や関心、楽しみを通じて、「人」や「活動」の輪を広げるつながりづくりに取り組んでいること(孤独・孤立の予防を含む)

福祉部 よりそい支援課 電話 0565-34-6791

誰もが暮らしやすい地域共生社会の実現に向けて

高齢者総合相談・認知症支援

豊田市では、安心して自分らしく生きられる支え合いのまちづくりを目指して、地域特性を踏まえながら社会全体で高齢者や認知症支援に取り組んでいます。

① 地域包括支援センターの設置

現在、高齢者に関する総合相談窓口として、地域包括支援センターを市内28中学校区ごとに設置し、地域の実情に合わせた、きめ細やかな対応が可能となる体制を構築しています。

② 認知症本人や家族への支援、知識と理解の普及啓発

認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会を目指し、普及啓発や本人発信支援、社会参加支援など、様々な事業を展開しています。

地域包括支援センターの職員が認知症地域支援推進員としての活動も兼務し、認知症本人や家族への支援や認知症に関する普及啓発を行っています。

認知症に関する取組全般はこちら(豊田市HP)→



認知症に関する豊田市の主な取組

・認知症伴走型支援拠点「オレンジほっとテラス」の整備



認知症の人やその家族に対し、相談対応や助言を認知症介護の専門家が日常的かつ継続的に行う認知症伴走型支援拠点となる相談窓口を市内2か所に整備

・若年性認知症等の人の社会参加支援(プラットフォーム)

認知症の人が地域において役割を担い、「生きがい」を持った生活が送れるよう、本人の希望に応じ、これまでの経験や残された能力を活かして、社会参加活動を行うための体制を整備

・認サポ×店舗プロジェクト

企業とともに、認知症への理解促進に向けて、地域住民へ認知症サポーター養成講座等を協働して実施したり、認知症の人の社会参加支援を一体的に展開することで、企業従業員の顧客対応力向上も目指しつつ、認知症の人にやさしいまちづくりを進める取組み

・若年性認知症本人・家族会の開催

若年性認知症の本人やその家族が、同じ境遇や悩みを持つ者同士で集い、交流するピアサポートの場を開催



・喫茶店や地元企業・団体と連携した認知症カフェの実施

介護サービス事業所との連携だけでなく、地域にあるカラオケ喫茶や、JA等の企業や団体と共催し、地域特性に合わせた認知症カフェを実施

豊田市 特徴的な施策

合言葉は「とよた健康プラス10(じゅう)」

地域・学校・企業等を巻き込んだ まちぐるみの健康づくり

令和6年4月からスタートした「健康づくり豊田21計画(第四次)」に基づき、地域・学校・企業等とつながりながら、幅広い世代を対象とした健康づくりを進めています。

【特徴的な取組例】

- ① 学生が講師となった地域住民等を対象とした健康教育
- ② 健康アドバイザー(※)による事業所の課題に応じた健康講座
- ③ 児童・生徒がアンバサダーとなった健康づくり啓発
- ④ 企業と連携した店舗内での健康づくりイベント
- ⑤ デジタルサイネージを使った健康づくり啓発

※市の研修を修了した専門職を市が独自に健康アドバイザーとして委嘱

【プラス10で取り組む健康づくり】

市民一人ひとりが、自分なりの「プラス10(じゅう)」の取組を実践していただくことで、市民の健康意識向上を目指します。



いつもより
「歩幅を10センチ広く」
意識して歩こう！

「朝昼晩合計10分」
ていねいに歯を磨こう！

野菜を
「プラス10口分」
多く食べよう！



学生が講師となった健康教育



事業所を対象とした健康講座



小学生を対象とした健康アンバサダー



店舗内での健康づくりイベント

保健部 健康づくり応援課 電話 0565-34-6627

豊田市 特徴的な施策

豊かな環境、資源及び文化をはぐくむ森林を未来へ

100年の森づくり

森林が市域の7割を占める豊田市では、森林の持つ公益的機能、特に災害防止機能や水源かん養機能を重視した森づくりに取り組んでいます。

林業の低迷により荒廃した人工林を「森づくり団地」という独自の手法で集約化することで、効率的に間伐を行い、公益的機能が高度に発揮される森づくりを進めています。

また、森林を将来にわたって維持していくために、森づくり人材の確保・育成や地域材の流通体制の整備を始めとした森林資源の有効活用、森林環境教育などに取り組んでいます。



産業部 森林課 電話 0565-62-0602

日本をリードするものづくり産業

地域産業発展を支える企業支援

豊田市は、日本の産業界を長年リードする自動車産業を中心とし、製造業が集まる「ものづくりの集積地」として深化を続けています。企業向けに多様な支援制度を用意し、ビジネス展開をサポートしています。

《企業立地支援》

製造業等を営む企業が、事業拡大や生産性向上を目的として、工場の新・増設や設備投資に伴う事業に対して、最大30億円(愛知県の補助金との合計額)を補助する奨励金制度を用意しています。

《民間開発支援》

用地等を求める企業と土地の利活用を求める不動産事業者等の仲介や開発に必要な接道要件を満たすための道路拡幅事業を対象とした補助金制度など、立地をスムーズに進めるための支援を実施しています。

《カーボンニュートラル取組支援》

市内で製造業又は運輸業を営む企業が再生可能エネルギー発電設備や水素活用設備を導入する際に補助するほか、市内中小企業を対象とした相談窓口の開設や個別コンサルティングの実施等、総合的な支援を実施しています。

豊田市が宅地造成し、令和3年度に分譲・完売(面積:5.3ha)

花本産業団地拡張事業



豊田市 特徴的な施策

はたらく人がイキイキ輝くまちを目指して

多様な人材の活躍支援

豊田市では多様な人材が市内で活躍できるように、はたらく”場所”や”人”を様々な形で支援しています。

毎年、働き方改革に積極的に取り組む事業所を「はたらく人がイキイキ輝く事業所」として表彰しています。受賞事業者には、補助金の上乗交付や求職者・就活生とのマッチング機会としてセミナーの優先参加といった特典を設けて動機付けを図っています。

外国人向けに「働くための日本語教室」や各種カウンセリングを実施しており、就職支援だけでなく、事業者とのミスマッチ改善にも取り組んでいます。

「女性しごとテラス」では、職業紹介やキャリアアップに向けたイベントやセミナーの開催だけでなく、民間企業と連携して女性の起業を支援する起業家育成プログラム「とよたで女性の起業できます.PROJECT」も実施しており、女性の自立的な働き方の実現や就業選択肢の拡大を目指しています。

はたらく人がイキイキ輝く事業所表彰



働くための日本語教室



女性しごとテラス



女性の起業家育成プログラム



ものづくり創造拠点 SENTAN

日本のものづくりの中心として、自動車産業をはじめとした様々なものづくり企業や人材が集まるまち、豊田市。

「ものづくり創造拠点 SENTAN」では、ものづくりに関する組織や機能を集約し、ものづくり企業・団体の「新たな事業展開」、「イノベーション創出」、「ものづくり人材の育成」の支援に取り組んでいます。

人やアイデアが繋がる交流スペースや、アイデアを形にできるものづくりスペースなどを活用し、新たな事業を展開したいものづくり企業や創業を志す人たち、ものづくりの次代を担う子どもたちを支援する新たな拠点として、「SENTAN」から、新しい豊田のものづくりを発信していきます。

人とアイデア、次代に繋ぐものづくり。



SENTANではFacebookを開設しています。ぜひフォローをお願いします。→



とよたのまちなかの公共的空間を活用

あそべるとよたプロジェクト

豊田市駅周辺にある、公共や民間が所有する開けた空間“まちなか広場”を、人の活動やくつろぎの場として開放し、市民・企業・行政が一体となってアイデアを出し合いながら、より良く活用する取り組みです。

とよたの魅力を伝え、とよたに愛着を持てる場として、地域全体を盛り上げることを目的としています。

①あそべるとよた推進協議会

公と民の広場管理者などが構成員となり、まちなかの広場の活用やその仕組みづくりを推進する組織です。

②あそべるとよたDAYS

豊田市駅周辺の“まちなか広場”を誰でも自由に活用できる仕組みです。様々な人々の“やってみたい”を実現しながら、地元の魅力をアピールする場としても広く活用されています。



豊田市とJAあいち豊田で共同運営で行う農作物栽培の担い手育成事業

豊田市農ライフ創生センター

I 目的

多様な農業の担い手を育成し、「生きがい型農業」の実践を支援することで、遊休農地の活用を進めています。また、農業・農地の多様な機能を活用し、市民と「農」の新たな関係を構築しています。

II 研修体系

○初級 植え付けから収穫まで気軽な野菜づくりを体験

○中級 農業の楽しみを知り、基本的な野菜づくりのノウハウを習得

○上級 農家となるための基礎から応用まで栽培技術を習得
就農後の農地情報提供、農機具貸出等の支援

○桃・梨専門コース

県内有数の桃・梨産地として維持・発展に寄与する人材の育成
里親農家とマンツーマンでは場の土づくりから栽培まで年間を通した果樹園経営の基礎を学び、修了後の独立自営を支援

<農ライフ創生センター研修体系> ※令和6年度実績

○農作物栽培技術研修

- ・初級「旬の野菜づくりコース(1年)」 四郷地区
- ・中級「生きがいづくりコース(1年)」 下山地区
- ・上級「担い手づくりコース(2年)」 四郷地区:新規就農科
旭地区:山間営農科

○桃・梨専門コース(2年) 舞木町管理ほ場ほか



都心空間の「活用」と「再整備」の両輪による取組

都心環境計画

名鉄豊田市駅周辺では、多様な来訪者に対する利便性の高いおもてなし機能を備えた交通拠点形成するとともに、魅力あふれる憩いの場となるよう、公共空間の整備を進めています。

<3つのコンセプト>

- ・ウォーカブルで 日常的に にぎわう公共空間の創出
- ・超高齢社会に適応した 交通結節機能の強化
- ・安全・安心な歩行者動線の確保と 施設機能、配置の最適化

コンセプトに基づき、本市の玄関口となる豊田市駅東口駅前広場や公共交通の利便性向上を図るバス乗降場・駅舎の整備を進めており、令和11年度末の完了を目指しています。



踏切がなくなる まちがかわる

名鉄三河線若林駅付近 連続立体交差事業

豊田市南部、名鉄若林駅付近では、都市交通の円滑化、踏切事故の解消及び市街地が一体化した良好なまちをつくるため、地域と協働して連続立体交差事業を進めています。

また、都市計画道路の整備や土地区画整理事業をあわせて進めており、安全で快適な魅力あるまちづくりを推進しています。

現在は、高架本体工事を進めており、令和7年度の鉄道高架化を目指しています。

～若林駅鉄道高架イメージ～



～「未来の若林」の絵の展示～



～君も高架化探検隊～



まちなかで鮎が釣れる清流再生と広大な水辺の空間づくり

矢作川かわまちづくり

中心市街地から徒歩圏内に、鮎の釣れる清流矢作川が流れ、豊かな自然に触れることができるのが本市の特徴です。

矢作川では、河川空間の更なる魅力向上や利活用増進を図るため、「矢作川かわまちづくり」計画を策定し、国土交通省と連携して河川環境の改善や河川敷の整備、河川空間のオープン化を進めており、水辺の新しい活用や水辺とまちが一体となった魅力あるイベントが数多く展開されています。

<取り組みの特徴>

- ・水際や河床等の河川環境と景観の再生による、潤いと親しみのある川づくり
- ・キャンプや音楽イベント等、水辺のフレキシブルな使い方による賑わいづくり
- ・まちなかや周辺施設との回遊性や連続性を高め、利用を促す空間づくり



建設部 河川課 電話 0565-34-6672
都市整備部 公園緑地課 電話 0565-34-6621

地域に親しまれ、なお美しい矢作川の創造をめざして

豊田市矢作川研究所

豊田市矢作川研究所は、川の水や自然に関わる関係機関で構成された「豊田市矢作川環境整備計画検討委員会」により、「一つの川に、一つの研究所を」を合言葉に、矢作川の様々な課題に対して科学的に取り組む必要性の提言がなされ、1994年に設立されました。

設立以来、豊かできれいな水と川の自然の回復、人々の生活にうるおいとゆとりを与える川づくりを行うため、地域密着型の調査研究や河川環境の啓発活動等を行っています。

2024年6月には、これらの活動が評価され「第26回 日本水大賞 環境大臣賞」を受賞しました。

<近年の主な取組>

- ・天然アユがすみやすい川づくりに向けた調査研究
- ・豊田市水辺愛護会による矢作川河畔環境整備の支援
- ・住民と行政の共働による多自然川づくり
- ・地域連携による外来生物対策研究(アカミミガメほか)
- ・モニタリング調査(水生生物、水源林)
- ・自然観察会への講師派遣



市街地を流れる矢作川での天然アユ釣りの様子



豊田市水辺愛護会による環境整備



住民との共働による川づくり

建設部 河川課 豊田市矢作川研究所 電話 0565-34-6860

豊田市 特徴的な施策

デジタルツインによる持続可能なまちづくり

道路・河川DX

現実空間の道路や建物について、3次元点群データの取得や3D都市モデル(PLATEAU)を整備することで、豊田市をまるごと仮想空間に再現するデジタルツインの構築を進めています。様々な課題をデジタルツインでシミュレーションすることにより、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

○3次元点群データの取得

- ・道路パトロール車にコンパクトな可搬型MMS※を設置
- ・パトロールを行いながら管理市道の全延長約2,600kmの3次元点群データを取得

※ MMS
Mobile Mapping System(モビルマッピングシステム)の略
レーザースキャナーなどの専用機器を取り付けた車両で走りながら計測を行うシステム

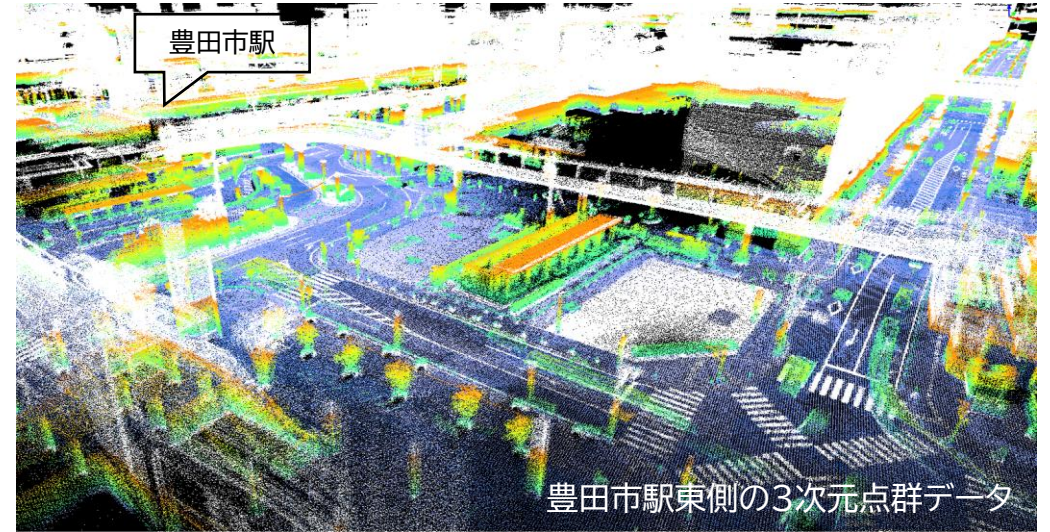


○3D都市モデル(PLATEAU)の整備

- ・豊田市全域の約918km²の建物の3D都市モデルを整備
- ・浸水シミュレーションにより、3Dで水害リスクを可視化

この他、「豊田市(道路・河川)DXアクションプラン(R6.6)」により、道路・河川分野のDX推進に取り組んでいます。

詳細はこちら(豊田市HP)→



建設部 建設企画課 電話 0565-34-6682



豊田市 特徴的な施策

人工衛星とAIによる水道管の健康診断

水道DX

24時間365日安全安心な「水」を供給するため、デジタル技術を活用した水道管の健康診断により、水道管の健康状態が見える化し、効率的な維持管理に取り組んでいます。

- ① 人工衛星データから水の成分を分析し、優先的に漏水調査エリアを特定する「漏水エリア特定診断」の実施
- ② 「漏水エリア特定診断」の精度を更に向上させるため、実証実験（漏水リスク評価）を実施し、検証
- ③ 未来の水道管の破損確率をAIで解析し、水道管の入替優先順位を見える化する「劣化予測診断」の実施
- ④ 熟練職員の暗黙知を定量化、入替順位に反映
- ⑤ 人工衛星データから取得した地表面温度を活用して「水道管凍結注意マップ」を作成、HPで公開



上下水道局（上下水）企画課 電話 0565-34-6792

西三河5市によるデジタル広域連携

給排水工事オンライン申請 システムの共同導入

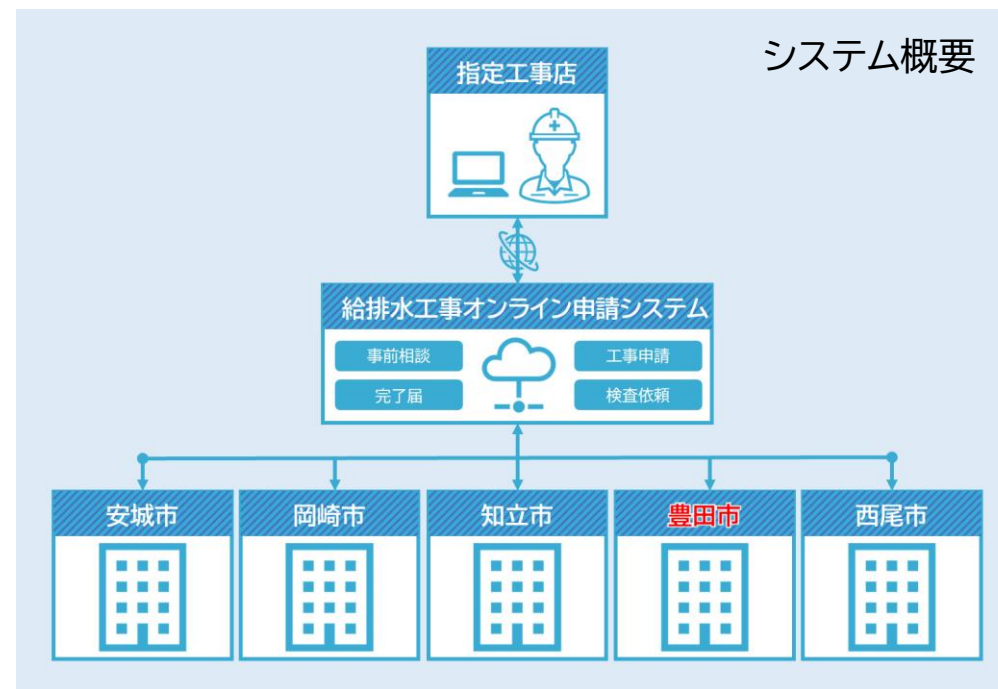
住宅等の建築・改築の際、指定工事店等が自治体に対して行う給水装置及び排水設備工事に関する申請のオンライン化を広域で進めるため、本市からの提案に賛同した安城市、岡崎市、知立市及び西尾市とともに「給排水工事オンライン申請システム」を共同導入します。

賛同市との連携体制を構築しながら、共同導入によるコスト縮減及びオンライン化による申請者の利便性向上を図ります。

<取組概要>

- システム仕様書やプロポーザル実施要領・評価基準を共同作成。
- 受託者選定のための公募型プロポーザルを共同実施。
- デジタル田園都市国家構想交付金/地域間連携事業として採択。
- 指定工事店等が5市いずれにも申請可能なシステムを導入。

システム概要



豊田市 特徴的な施策

山間部の災害時応急給水対策

耐震性貯水槽の設置

大規模地震などにより広範囲にわたる断水が発生した場合、市街地より遠方の山間部では、応急給水の開始に遅れが生じることが懸念されます。このような地域に被災時の生活用水を確保し、地域住民が自らの判断※で応急給水を開始することができる飲料用循環式耐震性貯水槽を整備しています。

- 飲料用循環式耐震性貯水槽の概要
 - ・有効容量: 6.0m³ (球形φ2280mm×全高3081mm)
 - ・材質: ステンレス製
- 飲料用循環式耐震性貯水槽の整備について
災害の拠点となる給水施設として山間部(足助地区・下山地区・旭地区・稲武地区・小原地区 各1か所)に整備しています。
- 飲料用循環式耐震性貯水槽整備箇所一覧
 - ①足助地区: 宮町駐車場(足助町宮平)
 - ②下山地区: しもやま広場(花沢町南川)
 - ③旭地区: 小渡児童遊園(小渡町南貝津)
 - ④稲武地区: どんぐりの里いなぶ多目的広場(武節町針原)
 - ⑤小原地区: 小原福祉センター駐車場(乙ケ林町寒田)

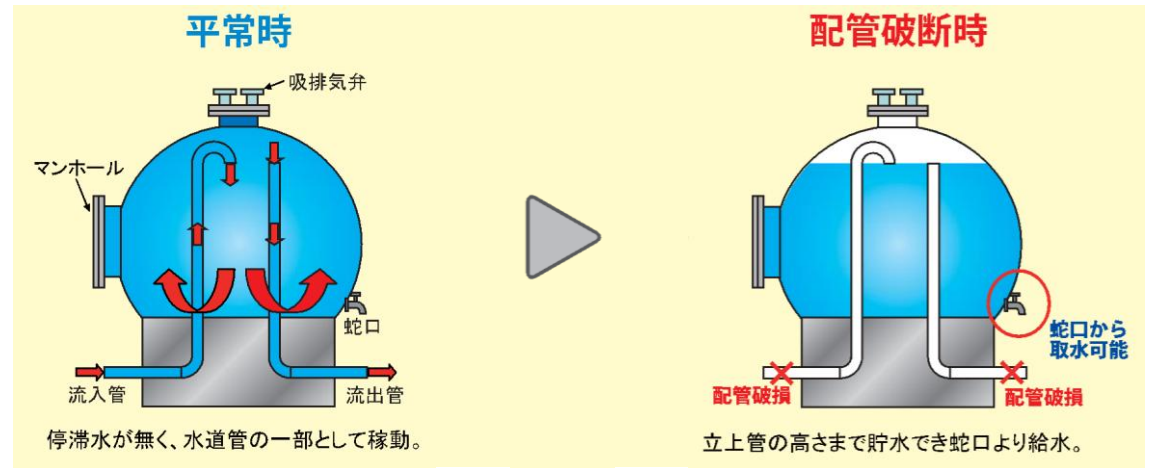
※ 整備箇所の自治区と運用に関する覚書を締結



<凡例>

豊田市役所: ★

飲料用循環式耐震性貯水槽: ▲



【特徴】

- ・平常時は、配水管の一部として利用し、非常時に配管が破損しても内部立上管の高さまでの飲料水が確保できます。

こどもに安全・安心な学校施設を

カーボンニュートラルに対応した 学校の暑さ対策

近年、夏季の気温が著しく上昇しており、学校現場では一部の授業や行事を中止する状況が発生するなど、対策が必要となっています。

本市では、安全・安心で快適な教育環境を確保するため、また、災害時の避難所としての活用の観点から、暑さ対策として、全ての小・中学校の体育館・武道場(102校・127施設)を対象に、令和7年度の夏までに空調設備を整備することとしました。

なお、空調設備の整備に合わせて、学校施設に太陽光発電設備も整備することとしました。新たに排出されるCO2にも適切に対応し、カーボンニュートラルの視点を踏まえて、環境改善の取組を進めています。



～まちへの愛着を育み 次の世代へ引き継ぐ～

「WE LOVE とよた」



「WE LOVE とよた」とは、豊田市のまちづくりの基本的な理念のひとつです。

豊田市は、豊かな自然、歴史や伝統、様々な文化、世界に誇るものづくり技術や技能、芸術・スポーツ、活発な市民活動など、多様な魅力を持っています。

これらの魅力を次の世代に引き継いでいくためには、幅広い市民がその魅力に気づき、楽しみ、愛着と誇りをもって行動していくことが必要です。

そこで、豊田市では、平成29年に「WE LOVE とよた」条例を制定し、「自由に楽しむ」などの基本理念を掲げながら、市民の主体的な取組の輪が広がるよう、様々な取組を展開しています。



WELOVEとよたフェスタ



地産地食の推進

地域資源の価値を高め、「WRCのまち」豊田をつくる

世界ラリー選手権ラリージャパン



最新のイベント情報は
ラリージャパン公式HPで御確認ください



旭高原元気村

世界ラリー選手権(WRC) [World Rally Championship]は、FIA(国際自動車連盟)が統括する、フォーミュラー1世界選手権(F1)、世界耐久選手権(WEC)などの自動車競技の世界選手権の一つです。

本市では、ラリーを「産業振興」「山村振興」「交通安全」などの面で、公益性の高いイベントと考え、ラリーをいかしたまちづくりを進めています。

日本では、2022年11月に愛知・岐阜で開催され、2023年からは豊田市も主催の一員となりました。豊田スタジアムにサービスパークを設置し、三河山間地等を舞台にラリージャパンを開催し、2024年の来場者は54万人に達しました。

世界トップのドライバーが最高のテクニックでコースを攻める様子は、非常にエキサイティングで必見です。

御注目いただくとともに、ぜひ観戦にお越しください。

サービスパーク(豊田スタジアム)



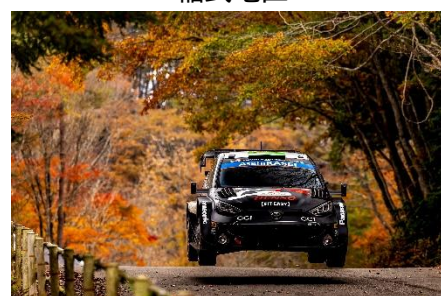
豊田市駅前ファンミーティング



鞍ヶ池公園



稲武地区



伊世賀美隧道
(旧伊勢神トンネル)



豊田をラリーの聖地に！ ラリーイベントを盛り上げる各種取組



<スポーツボランティアとよた>

ラグビーワールドカップ2019に多くの市民がボランティアとして参加しました。そのレガシーを継承し、「スポーツボランティアとよた(愛称:スポボラとよた)」が設立され、現在は、様々な市内のイベントに参画しています。

WRCにおいても、約1,000名がボランティアとして参加し、大会運営を支えました。

○取組事例

- ・競技運営のサポート
- ・来場者へおもてなし(会場案内、グッズ配布) など

○登録総数

令和6年11月時点 2,957人

魅力創造部 スポーツ振興課 電話 0565-34-6632



<ENJOY! RALLY モーターフェスタ>

WRCの開催に合わせ、豊田市駅周辺の公共的空間で、「クルマ」をコンセプトとした「まちの賑わい」を創出するおもてなし事業を実施しています。

市内団体や企業を中心に、ラリーファンだけでなく家族連れや若者もラリーを体感できる催しを実施し、まちなかの盛り上げや、回遊・消費へとつなげています。

○取組事例

- ・イルミネーション、アーチ等のシティドレッシング
- ・とよたまちなかプレミアム付商品券
- ・ラリーカーの展示&同乗会 など

○来場者数

令和6年度 約42,000人
令和5年度 約30,000人

産業部 産業振興課 電話 0565-34-6642



<とよたのエがオになる市民活動ラリー>

ラリーの機運醸成と市民活動の活性化を目的に、市民活動の中でラリーに関連した取組を行ってもらい、ラリーを身近に感じてもらうという取組。

団体や企業と共に、ラリーを盛り上げ、楽しんでいます。

○取組事例

- ・子育て支援団体によるミニラリーカー親子遊び
- ・ものづくり団体によるラリー柄の染め物体験 など

○令和6年度実績

参画団体 309団体・企業
啓発人数 270,300人
体験者数 20,938人

地域活躍部 地域交流課 電話 0565-34-6626

大観衆を感動で包み込む劇場空間

豊田スタジアム



●豊田スタジアム

住所 豊田市千石町7-2
電話 0565-87-5200
開館 12月28日～1月4日を除く
午前9時～午後9時



最新のイベント情報は
サイト上で御確認ください

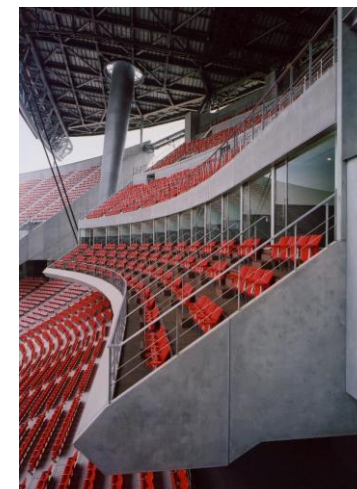
豊田スタジアムは、陸上トラックのない球技専用スタジアムで、名古屋グランパスやトヨタヴェルブリッツのホームスタジアムです。愛知県出身の建築家・黒川紀章氏の設計で、4つのマストで吊る独自の「吊り屋根構造」を採用しており、観戦の妨げとなる支柱を場内から排除し、広々とした視界を確保していることが特徴的です。

Jリーグやリーグワンの公式戦のほか、サッカー・ラグビーの日本代表戦の開催実績があり、ラグビーワールドカップ2019日本大会においては3試合の会場となりました。また、天然芝のピッチは徹底した生育管理をしており、2014年から3年連続で「Jリーグベストピッチ賞」を受賞しています。

美しい曲線を描くスタジアムの意匠は、市街地との動線にある豊田大橋と共に印象的で、まちのシンボルとして市民に親しまれています。

<施設概要>

収容人数	44,380席（可動席あり）
完成	2001年6月25日
利用開始	2001年7月21日
建設費	451億円（土地購入費、公園整備費含む）
面積	中央公園 170,000㎡ 建設面積 40,734㎡ 延床面積 97,004㎡



魅力創造部 スポーツ振興課 電話 0565-34-6632

世界的に活躍する建築家が設計した2つのミュージアムが並び立つ必見のロケーション

豊田市博物館 ・ 豊田市美術館



俯瞰イメージ 向って左側が博物館、右側が美術館

独創的でありながらも環境に配慮した建築で名高い坂茂(ばん しげる)設計の博物館と、美術館建築の名手・谷口吉生(たにぐち よしお)の設計による美術館の二つの名建築が並び立つ他では見られない注目のロケーションです。

庭園は、米国のランドスケープ・デザイナーのピーター・ウォーカーによるもので、景観に一体感と統一感を醸し出し、両館を自然に行き来できるようデザインされています。

豊田市の文化拠点施設として、建築空間とコレクションのどちらも見ごたえのある二つの館を、ぜひ御覧ください。



● 豊田市博物館

住所 豊田市小坂本町5丁目80番地
電話 0565-85-0900
開館時間 午前10時～午後5時30分
(入館は午後5時まで)
休館 月曜日(祝辞の場合を除く)、
年末年始、展示替え休館



詳細情報は
サイト上で御確認ください

● 豊田市美術館

住所 豊田市小坂本町8丁目5番地 1
電話 0565-34-6610
開館時間 午前10時～午後5時30分
(入館は午後5時まで)
休館 月曜日(祝辞の場合を除く)、
年末年始、展示替え休館



詳細情報は
サイト上で御確認ください

21世紀のミュージアムを目指す建築と展示。市民と共に「みんなでつくる」博物館

豊田市博物館 (2024年開館)



豊田市博物館は、本市の自然・歴史・産業を幅広く扱う総合博物館。地域のあゆみを受け継ぎ、その魅力を探り、豊田市の人と未来をつくることを目指して、多くの人が集う場として設置されました。

博物館と市民・地域・企業が資料収集や展示・体験活動等を共に進めることで、いつ来ても新しい発見がある博物館です。

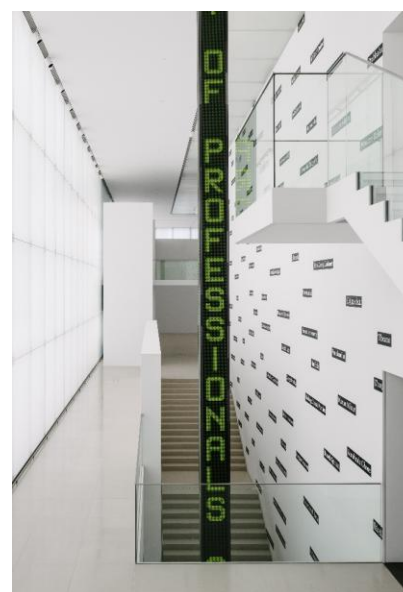
キッズスペースやミュージアムショップ・カフェmitsubachiでは、本市の魅力を遊び、飲食・ショッピングで楽しむことができます。

【上】常設展示室「とよたモノ語り」
【右上】むかしの家 【右下】キッズスペース



日本で最も美しい美術館の一つとも評されるモダニズム建築

豊田市美術館 (1995年開館)



豊田市美術館は、19世紀後半から現代までの国内外の美術やデザイン、工芸のコレクションを有する美術館として1995年に開館しました。以来、鑑賞者一人ひとりが作品と対話し、それぞれの作品との関係をつくり出す場となることを目指して、コレクションの形成、同時代の作家たちとの展覧会やコミッションワーク、市民と共に歩む教育普及活動などを展開してきました。

美術館本館の隣には、漆芸作品を展示する「高橋節郎館」があり、また、庭園内には気軽にお抹茶を飲める茶室「童子苑」があるなど、1日ゆっくりと楽しめる美術館です。

ジェニー・ホルツァー《豊田市美術館のためのインスタレーション1995》



グスタフ・クリムト《オイゲニア・ブリマフェージュの肖像》
こども向けギャラリートーク



高橋節郎《星座創記》

歴史と文化が継承される「足助」で、住民と共に目指す新たなまちづくり

足助重要伝統的建造物群保存地区

足助の町並み(川側)



足助の町並み(街道側)



足助まつり



たんころりん(町並みイベント)



重要文化財旧鈴木家住宅



江戸時代に交通・物流の要所として栄えた足助の町並みは、平成23年に国から重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。

町並み保存運動は、住民主体で昭和50年代から始まり、時代が移り行く中でその時々の方影を伝え、今も歴史的景観を守っています。

地区内にある重要文化財旧鈴木家住宅(令和5年8月部分公開)を、観光や市民の交流拠点として、地域住民と共に新たな暮らしと賑わいづくりを目指しています。

足助城



近隣には、400年前に、三栄和尚がお経を唱えながらモミジや杉をお手植えたことに始まり、その美しい景勝をより良くしようと100年前に住民らが植樹して創りあげた、日本屈指の紅葉の名所である「香嵐溪」(国定公園)や、全国に先駆け、発掘調査に基づいて復元した戦国時代の山城「足助城」があります。

歴史・文化・自然が一度に楽しめる「足助」にぜひお越しください。

香積寺(香嵐溪内)



● 足助の情報は
観光協会HPを
ご覧ください



● 重要文化財
旧鈴木家住宅



3つのPPP手法を組み合わせ、魅力創出を実現

鞍ヶ池公園



●基本情報

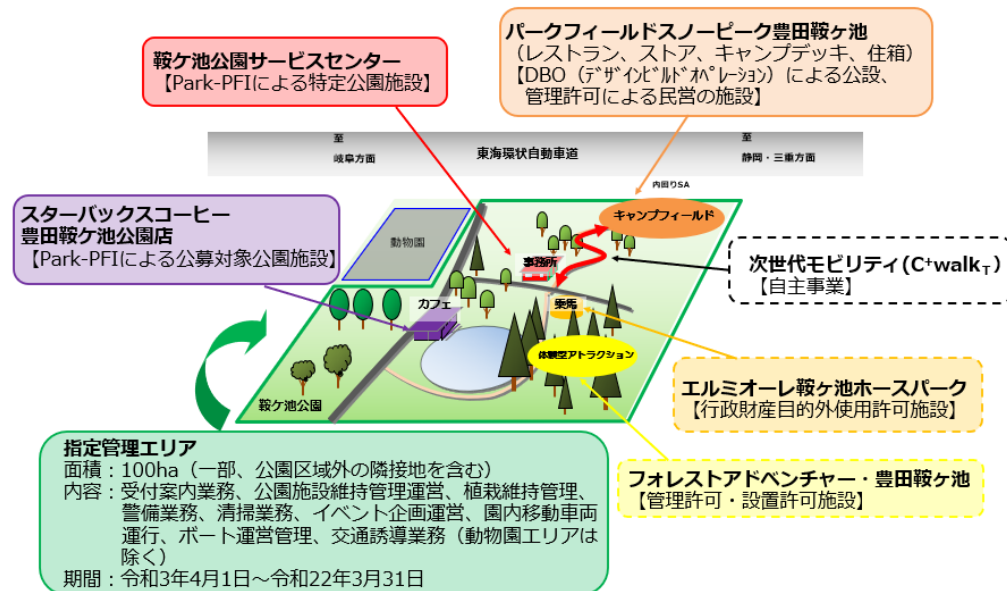
住所 豊田市矢並町法沢713-2
電話 0565-80-5310(指定管理者)
開館 年末を除く午前9時～午後5時(施設により異なる)



各施設の詳細や
最新のイベント情報など
HPで御確認ください

【特徴】

- ① 官民連携により新しいミライ空間を創出するため、Park-PFI、DBO(デザインビルドオペレーション)、指定管理者制度を組み合わせた事業提案を公募して事業者を決定。
- ② 令和3年5月のリニューアルオープン後、公園づくりを推進するため、市と事業者は毎月、運営協議を実施。公園周辺関係者を交えた公園協議会や、外部識者で構成する評価委員会によりPDCAサイクルを回し、魅力向上の取組を継続しています。
- ③ その結果、マルシェなどイベント開催のみならず、次世代モビリティ(C+walkT)体験乗車、パークウェディング、キャンプ交流イベントなど新たなコンテンツを次々に展開。特に、鞍ヶ池公園で開催する世界ラリー選手権シェイクダウンは多くの人々で賑わいます。



とよたの観光



「クルマのまち」として知られる豊田市ですが、香嵐溪の紅葉を始め、自然の観光資源も豊富です。視察と合わせて、豊田市内の観光をお楽しみください。



とよたの
宿泊情報



とよたの
グルメ



とよたの
お土産

詳しくは、豊田市公式観光サイト「ツーリズムとよた」で検索



ツーリズムとよた
TOURISM TOYOTA



行政視察関係者向け 注目！近隣スポット

愛・地球博記念公園(モリコロパーク)に誕生した
スタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設

ジブリパーク (愛知県長久手市)



©Studio Ghibli

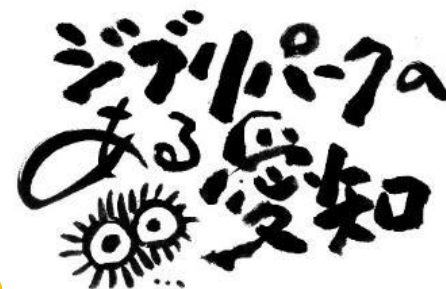


「ジブリパーク」は、豊田市のすぐとなりの長久手市にあります。

豊田市の視察と合わせてジブリパークに来園される際は、ぜひ豊田市内で御宿泊ください。お得なタクシー割引も御用意しています！



豊田市公式観光サイト「ジブリパークへ行くなら、#となりのとよたに泊ろう！」ページはこちら



© Studio Ghibli

チケットは予約制です。御注意ください。

つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた



●編集・発行 豊田市 市長公室 経営戦略課（電話0565-34-3360）
2025年3月発行

